小・中　合同

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 1

Ⅱ　研究の視点 …… 1

Ⅲ　研究仮説 …… 2

Ⅳ　研究方法 …… 2

Ⅴ　研究内容 …… 3
１　基礎研究 …… 3
(1)　「主体性」の捉え方
(2)　「１単位時間」の捉え方
(3)　１単位時間の「めあて」の捉え方
(4)　１単位時間の「振り返り」の捉え方

２　調査研究 …… 5
(1)　調査のねらい
(2)　調査概要
(3)　調査結果と考察

３　授業研究（研究主題に迫る手だて） …… 9
(1)　児童・生徒自らが次時のめあてを設定できるようにする指導
(2)　視点を明確にした振り返りの指導

４　実践事例 …… 10

Ⅵ　研究の成果と課題 …… 24
１　研究の成果 …… 24
(1)　児童・生徒自らが次時のめあてを設定できるようにする指導
(2)　視点を明確にした振り返りの指導

２　今後の課題 …… 24

研究主題

児童・生徒の主体性を育てる指導の工夫
～１単位時間の「めあての設定」「振り返り」を通して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

総合的な学習の時間の目標は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することである。その資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性等」に関して、平成29 年６月公示の小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編及び同年７月公示の中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（以下、小・中学校解説総合編）は、「総合的な学習の時間を通して、自ら社会に関わり参画しようとする意志、社会を創造する主体としての自覚が、一人一人の児童・生徒の中に徐々に育成されることが期待されている」と述べている。これまでも総合的な学習の時間においては、探究的な学習の過程を通して、実社会や実生活と関わりのある学びに主体的に取り組むこと、他者との対話を通じて考えを広げ深めることが重要視されてきた。総合的な学習の時間の中核である、探究的な学習の過程を質的に高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、一層の授業改善が必要である。

主体的な学びとは、課題解決のために見通しをもって粘り強く活動し、自己の活動を振り返り、更に取り組みたいことを見いだす学びであると考える。それを繰り返す中で、児童・生徒が本来もっている主体性が発揮されていくであろう。総合的な学習の時間においては、学習したことをまとめて表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる課題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく過程を重視してきた。こうした学習過程の中で児童が主体的に学んでいくためには、課題の設定と振り返りが重要となる。

以上のことから、本研究では総合的な学習の時間において１単位時間における「めあての設定」と「振り返り」の場面に視点を置いて研究を進めることにした。前時の振り返りと次時のめあての設定のつながりを意識して学習を行っていくことにより、児童・生徒の主体性を育むことができるのではないかと考えた。

そこで、本研究部員の所属校において、総合的な学習の時間の１単位時間の中でのめあての設定と振り返りの場面について実態調査を行った。その結果、１単位時間の学習のめあてを、児童・生徒主体というよりも教員主導で設定している実態が明らかとなった。また、児童・生徒が体験や活動を十分に振り返っていない場合があることが分かった。

以上のような学校の実態と社会の背景を踏まえ、本研究では、１単位時間の指導におけるめあての設定と振り返りの場面に焦点を当て、具体的な手だてについて研究する。毎時間の学習の繰り返しが児童・生徒の主体性を育んでいくものと考え、研究主題を「児童・生徒の主体性を育てる指導の工夫～１単位時間の『めあての設定』『振り返り』を通して～」と設定した。

Ⅱ　研究の視点

授業実践を通して、児童・生徒が主体的にめあてを設定したり、振り返ったりすることができる具体的な手だてを明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

１単位時間の学習の終末において、児童・生徒が次時のめあてを設定し、本時の活動を振り返るように指導することで、児童・生徒の主体性が育っていくであろう。

Ⅳ　研究方法

１　基礎研究	２　調査研究	３　授業研究
「主体性」、「１単位時間」、「めあての設定」、「振り返り」についての捉え方を明らかにした。	小学校・中学校の総合的な学習の時間における「めあての設定」、「振り返り」の場面について、児童・生徒及び教員に対して実態調査を行った。	視点を明確にした振り返りの指導や、児童・生徒自らが次時のめあてを設定できる指導を行った。

（研究構想図）

総合的な学習の時間の指導の改善・充実
「主体的・対話的で深い学び」の実現（平成 29 年３月学習指導要領総則）

社 会 の 背 景
・生産年齢人口の減少
・グローバル化の進展・技術革新
・社会構造・雇用環境の変化

児童・生徒及び教員の実態
・めあてを児童・生徒主体で設定していないことがある。
・めあての設定や振り返りの指導が十分ではない。

調 査 研 究
「めあての設定」「振り返り」の場面についての実態調査

研　究　主　題
児童・生徒の主体性を育てる指導の工夫
～１単位時間の「めあての設定」「振り返り」を通して～

基　礎　研　究
研究主題に関する基礎的研究
・「主体性」の捉え方　・「１単位時間」の捉え方
・１単位時間の「めあて」「振り返り」の捉え方

研　究　仮　説
１単位時間の学習の終末において、児童・生徒が次時のめあてを設定し、本時の活動を振り返るように指導することで、児童・生徒の主体性が育っていくであろう。

研 究 の 視 点
授業実践を通して、児童・生徒が主体的にめあてを設定したり、振り返ったりすることができる具体的な手だてを明らかにする。

授　業　研　究
研究主題に迫る手だて（小学校第３・４・５学年・中学校第１学年の授業実践）
(1) 児童・生徒自らが次時のめあてを設定できるようにする指導
(2) 視点を明確にした振り返りの指導

Ⅴ　研究内容

1　基礎研究

本研究では、小・中学校解説総合編を基に、主題に関わる言葉を以下のように捉えた。

(1)　「主体性」の捉え方

小・中学校解説総合編（第７章第３節）には、「問題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために自分が取り組もうとする主体性」と記されている。

このことから、本研究における「主体性」を「実社会や実生活から自ら課題を見付け、自ら考え、よりよく解決するために判断し、行動しようとする姿勢」と捉えた。以下のような姿が見られたときに主体性が育まれていると考えた。

- 自ら課題を見付けている姿
- 見通しをもって課題解決のために考えている姿
- 課題解決のために行動している姿

(2)　「１単位時間」の捉え方

「１単位時間」とは、「本時のねらいを達成するために、学習活動によって学習過程（展開、次時のめあての設定、振り返り）を柔軟に設定した授業時間のまとまりのこと」である。

小・中学校解説総合編第９章第３節では、総合的な学習の時間の授業時間について「探究的な学習を基本とするという学習活動の特質を踏まえ、目標及び内容を考慮して教育効果を高める観点に立って、（中略）45 分（50 分）にこだわらず、授業時間を弾力的に扱う柔軟な運用」を求められている。

通常の授業時間は、小学校が 45 分間、中学校が 50 分間である。しかし、総合的な学習の時間において実験や観察、調査といった学習活動や、外部からの講師を招いた学習を行う場合などにおいて本時のねらいを達成するためには、60 分間や 90 分間で授業を行うなど、授業時間を柔軟に変えた方が効果的な場合もある。ただし、例えば小学校において１単位時間の学習を 90 分間で行ったのであれば、授業時数は２時間扱いとする。

(3)　１単位時間の「めあて」の捉え方

実社会や実生活には、複合的な要素が入り組んでいて答えが一つに定まらず、容易には解決に至らない問題が存在する。その中から、各学校は総合的な学習の時間で扱う探究課題を設定する。探究課題の設定は、総合的な学習の時間が掲げる目標の実現に向けて、資質・能力を育むために行うものである。児童・生徒は探究課題と向き合い、解決を目指して学習するために、学習課題を自ら設定する。その学習課題を解決するために、児童・生徒が１単位時間の中で達成したり到達したりしようとする目標を「めあて」として設定する。

学習のめあてを児童・生徒が設定し、めあての達成に向けた活動を積み重ねるようにする指導が、児童・生徒の主体性を育むと考える。本研究では、問題、探究課題、学習課題、めあてについて図１のように整理した。

問　題	実社会・実生活に見られる	○社会問題　○日常生活の問題
探究課題	単元において扱う	○学校が定める児童・生徒が取り組むべき課題
学習課題		○探究の過程において設定する課題
めあて	１単位時間の授業において設定する	○達成・到達しようとする目標

図１　問題、探究課題、学習課題、めあてについて

(4)　１単位時間の「振り返り」の捉え方

「振り返り」とは、学びを意味付けたり価値付けたりする活動である。それによって自己の変容を自覚する、次時の見通しをもつなどの力が付くと考えられる。

小・中学校解説総合編第７章第２節１には、「振り返りについては、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていくことにつながる。」とあり、第２章第２節２(1)にも、「学んだことの有用性を実感するためにも、他教科等とこの時間との資質・能力の関連を、児童・生徒自身が見通せるようにする必要がある。そのためにも、学習においてどのような関連が実現されたのかを振り返ることなどが考えられる。」とある。

児童・生徒は、取り組んだ学習活動を通して自分の考えや意見を深め、振り返りを行う。このとき、学びの意味付けや価値付けをすることで、学習の有用感を味わったり他教科等と総合的な学習の時間との資質・能力を関連付けたりして、学ぶことの意味を自覚する。児童・生徒は、自ら学びの成果を振り返ることによって、次時の学習を見通し、取り組むべきことを見いだせるようになっていく。児童・生徒の主体性を育む上で、この振り返りは大変重要である。

以上の基礎研究を踏まえて、主題に迫るために１単位時間の学習過程について検討を行った。本研究部員が行っていた１単位時間の学習過程は、まず導入時にめあてを設定し、終末に学習の振り返りを行うというものである。本研究では、終末に本時の学習を踏まえて次時のめあてを設定するという学習過程をとることにより、児童・生徒が次の学習への見通しをもつことで、主体的に総合的な学習の時間の学習に取り組むことができると考えた（図２）。

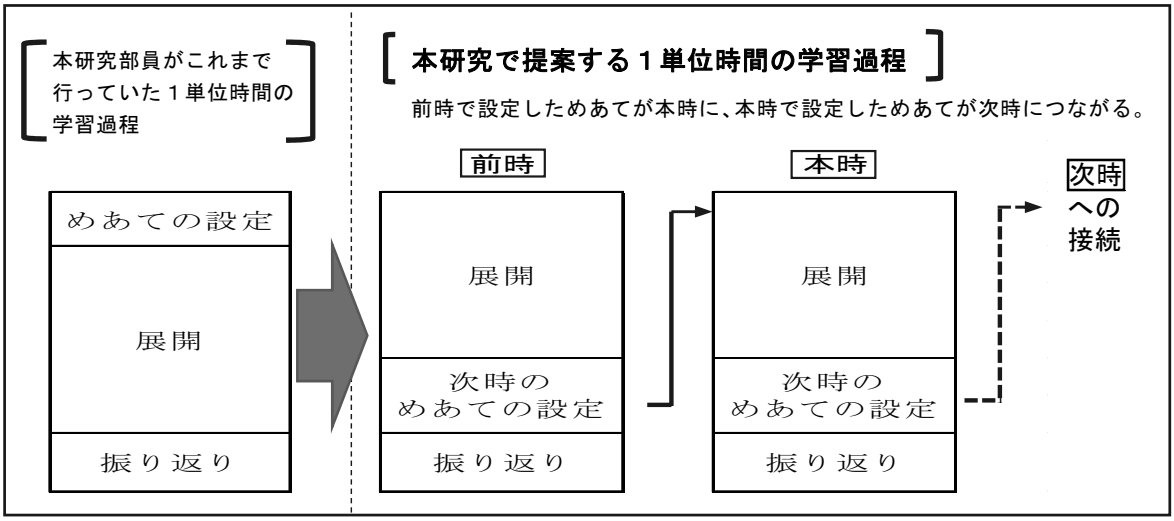

図２　１単位時間の学習過程

２　調査研究

(1) 調査のねらい

総合的な学習の時間の授業の実態を把握するため、本研究部員の所属校で、教員対象と児童・生徒対象の調査を行った。１単位時間ごとの授業における学習のめあての設定や振り返りの在り方と、児童・生徒の主体性が育まれることとの関係や、児童・生徒の主体性を育む上で課題となる点を明らかにすることをねらいとした。

(2) 調査概要

総合的な学習の時間における１単位時間の授業のうち、学習のめあてを設定する場面と振り返りの場面に焦点を当て、表１の通りに実態を調査した。

	教員対象	児童・生徒対象
調査時期	平成 29 年７月	平成 29 年７月
調査対象	都内小学校４校・ 都内中学校１校の教員 （本研究部員所属校）	都内小学校４校第３～６学年の児童 都内中学校１校第１～３学年の生徒 （本研究部員所属校）
調査方法	質問紙法（選択式・単一回答）	質問紙法（選択式・単一回答）
サンプル数	90 人	1,502 人

表１　調査研究概要

(3) 調査結果と考察

学習のめあての設定状況と振り返りの実態について行った調査について以下にまとめる。

なお、本研究に述べている学習の「めあて」とは、Ｖの１の(３)基礎研究の「めあて」に述べた、１単位時間の終末に達成・到達しようとする目標として、授業の中で児童・生徒に示すものである。「めあて」は、教員の指導計画における１単位時間の「指導目標」のことではない。

ア　学習のめあての設定について

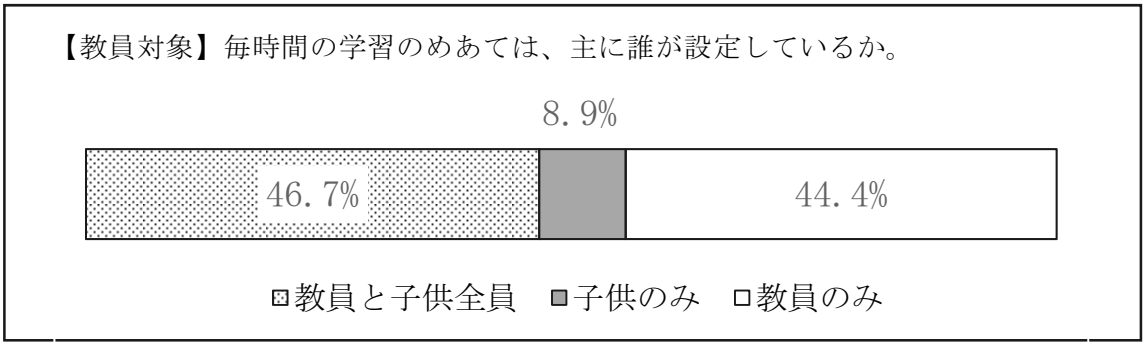

図３　めあて設定の実態に関する調査結果（教員対象）

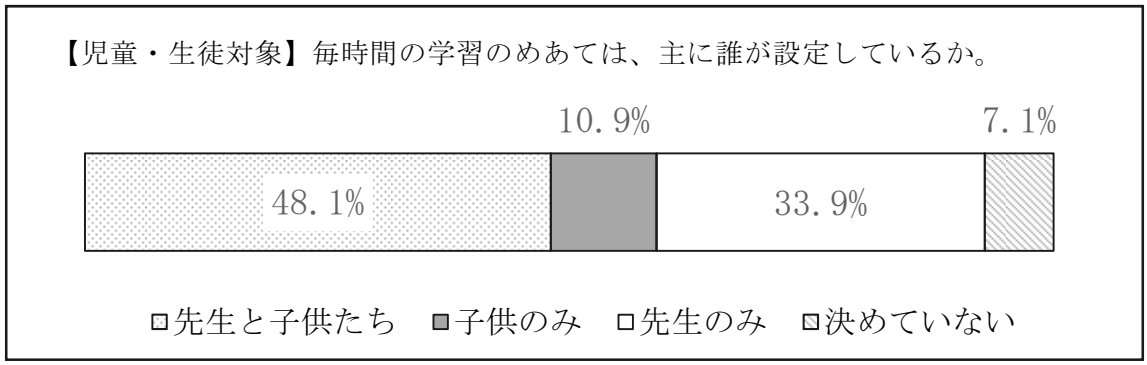

図４　めあて設定の実態に関する調査結果（児童・生徒対象）

これらの問いにより、１単位時間の学習のめあての設定に児童・生徒が関わっているかどうかを把握した。

教員の 55.6%が「教員と子供全員」または「子供のみ」で学習のめあてを設定すると回答した（図３）。また、児童・生徒の 59.0%が同様の回答であった（図４）。

教員の 44.4%は、「教員のみで学習のめあてを設定している」と回答した（図３）。児童・生徒の 33.9%が、「先生のみ」で学習のめあてを決めていると回答した。「めあてを決めていない」と認識している児童・生徒が 7.1%であった（図４）。

イ　めあてを誰が設定しているかどうかと、他の質問項目のクロス集計

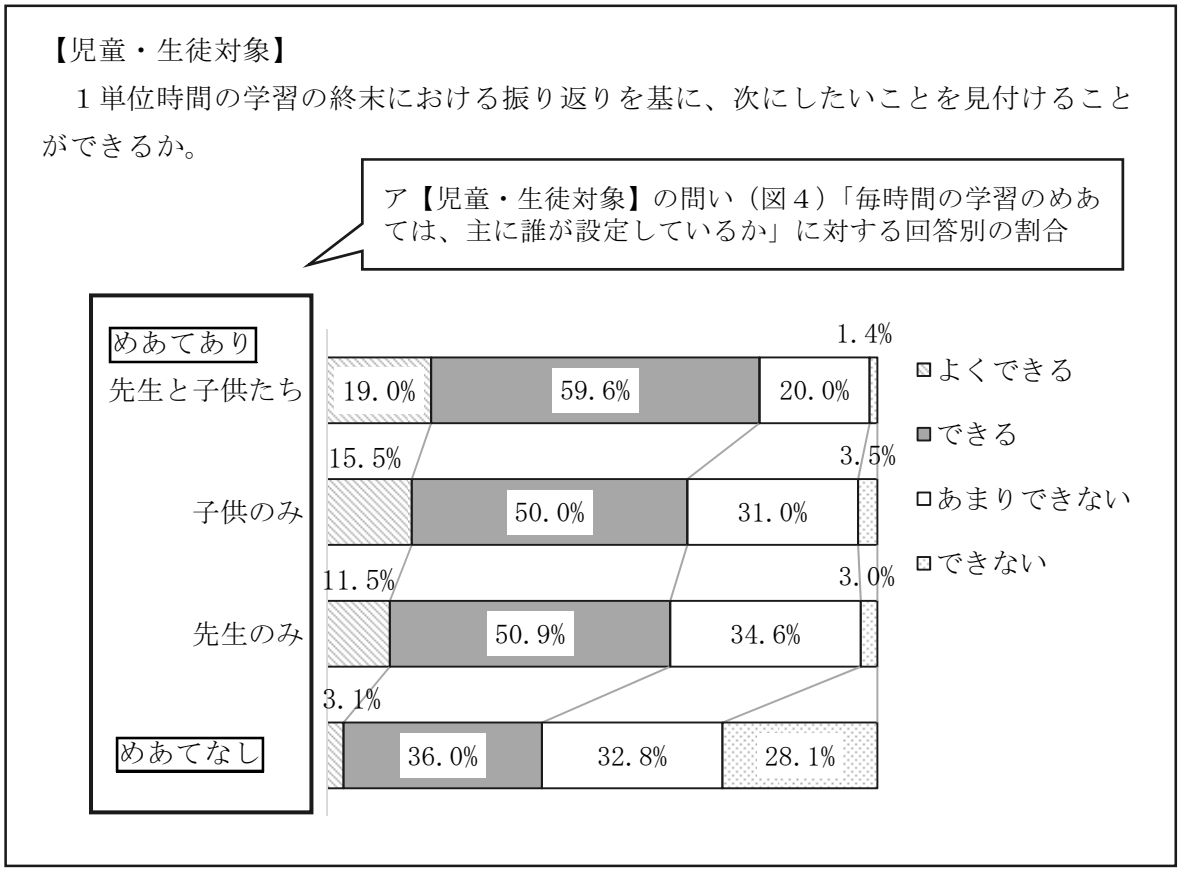

図５「めあての設定の実態」と「次時の学習について」のクロス集計（児童・生徒対象）

アの問いにおいて、学習のめあてを決めていると回答した児童・生徒は、決めていないとした児童・生徒よりも高い割合で肯定的な回答をした。

アの問いにおいて、学習のめあてを「先生と子供たち」が一緒に決めていると回答した児童・生徒では、学習の終末で行う振り返りを基に、次にしたいことを見付けられると回答した児童・生徒が最も高く、78.6%である（図５）。

ウ　振り返りについて

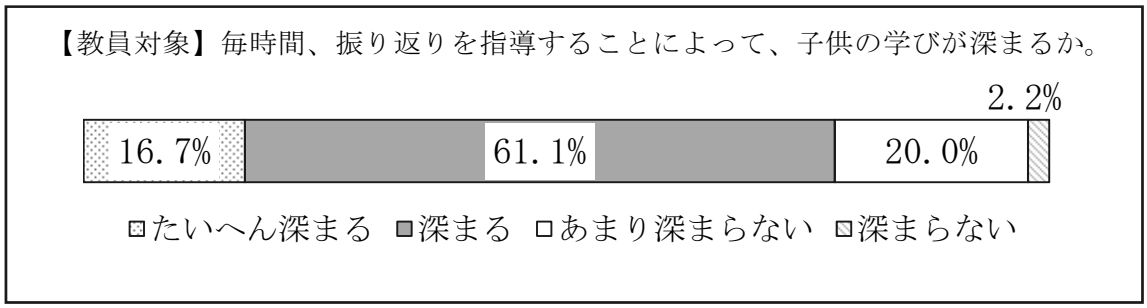

図６　振り返りによる子供の学習の実態に関する調査結果（教員対象）

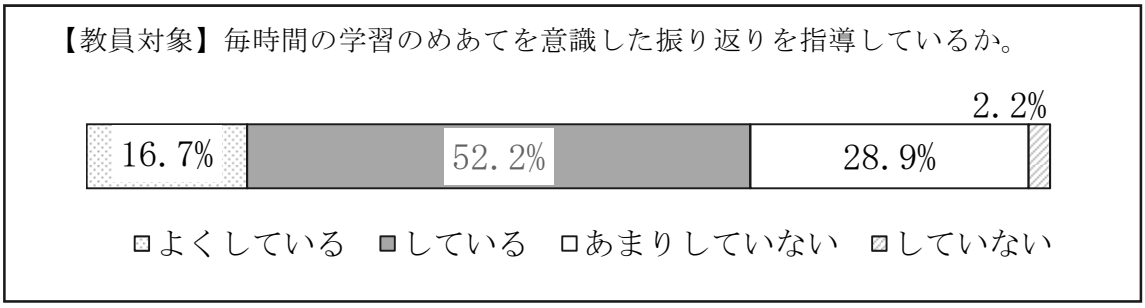

図７　めあてを意識した振り返りの実態に関する調査結果（教員対象）

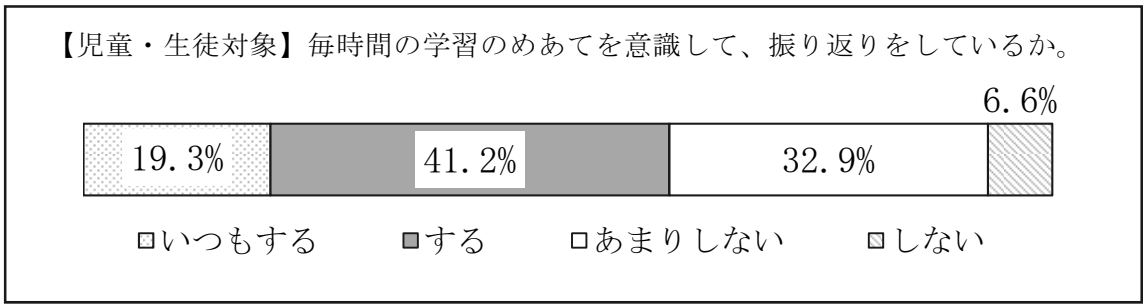

図８　めあてを意識した振り返りの実態に関する調査結果（児童・生徒対象）

これらの問いにより、１単位時間の学習の終末で、学習の振り返りの実態を把握した。教員の 77.8%が、児童・生徒に毎時間の振り返りをさせることで、「子供の学びが深まる」と考えている（図６）。しかし、学習のめあてを意識した振り返りができるよう指導していると回答した教員は、68.9%にとどまった（図７）。児童・生徒の 60.5%が、学習のめあてを意識して振り返りをしていると回答した（図８）。

エ　学習の振り返りと、他の質問項目のクロス集計

(ｱ)　【児童・生徒対象】毎時間の振り返りを基にして、次の学習のめあてを決めているか。

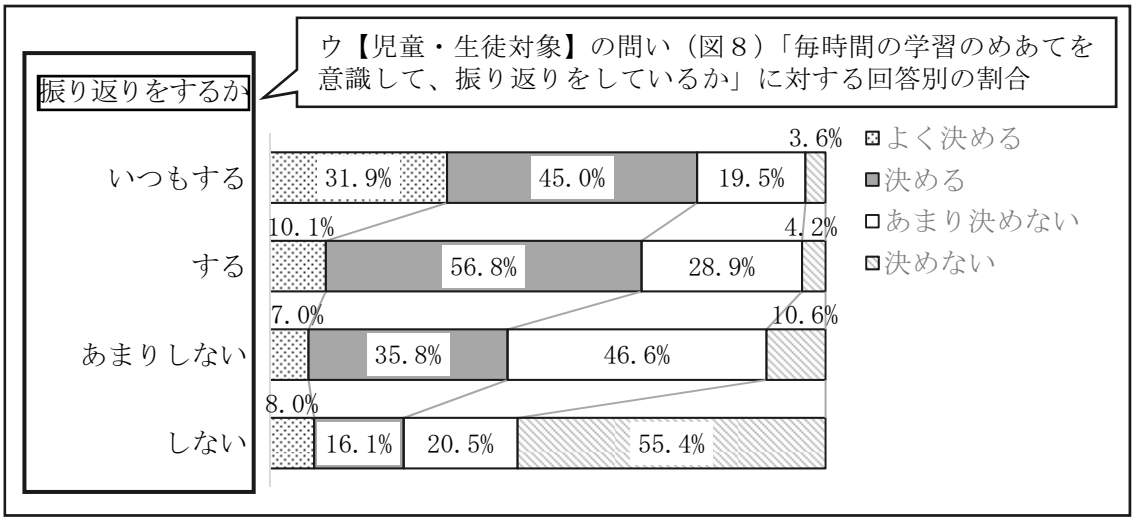

図９　「振り返りの実態」と「次のめあての設定」のクロス集計（児童・生徒対象）

(ｲ)　【児童・生徒対象】振り返りを通して、自分の成長に気が付くか。

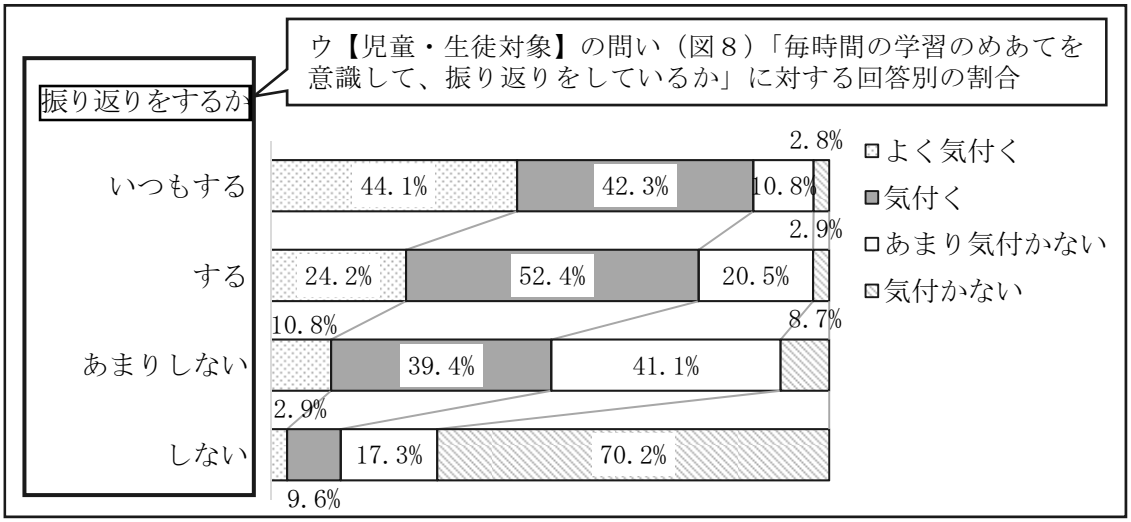

図 10　「振り返りの実態」と「自己の成長」のクロス集計（児童・生徒対象）

(ｱ)の結果から、児童・生徒は毎時間の学習を振り返ることにより、学習の見通しをもつようになっていくと考えられる（図９）。また(ｲ)の結果から、振り返りをする児童・生徒は、学習の積み重ねによる自分の成長を自覚することができると考えられる（図 10）。

オ　考察

以上の調査結果から、次の二つのことが考えられる。

○児童・生徒が主体となって学習のめあて設定を進め、そこに教員が適切に関わることにより、児童・生徒は学習の見通しをもち、主体的に課題に取り組むようになる。
○児童・生徒は、振り返りによって自分の成長に気付くとともに、学習の有用性を実感する。

このことを踏まえ、本研究では毎時間のめあての設定・振り返りの場面の指導に重点を置く必要があると考えた。

３　授業研究（研究主題に迫る手だて）

(1) 児童・生徒自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

児童・生徒が主体的に学習に取り組むためには、児童・生徒が見通しをもって取り組んだり、気付いたことや感じたこと、学んだことなどを振り返ったりして、児童・生徒が自らの学びや変容を自覚することが大切である。

本研究では、児童・生徒が１単位時間の終末に次時の学習のめあてを設定する時間を設ける。その際、教員が次のような指導をすることによって、児童・生徒は主体的に学習に取り組めるようになると考える。

ア　探究課題と十分に関わった段階で、単元の終末に到達したい自己の姿（以下、ゴールイメージ）を想像させ、そのゴールイメージに到達するためにすべきことを意識してめあてを設定する。

イ　児童・生徒が考えためあてに対し問い返すことで、より具体的なめあてを設定する。問い返す内容は、例えば以下の通りである。

時間「いつするのか」　内容「何をするのか」
理由「なぜするのか」　目的「何のためにするのか」
方法「どのようにするのか」　有効性「効果があるか」
予測「それをするとどうなるのか」「達成できるのか」

(2) 視点を明確にした振り返りの指導

小・中学校解説総合編第７章第２節１で「文字言語によってまとめることは、学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既有の知識とを関連させ、自分の考えとして整理する深い理解につながっていく。」と述べられているように、児童・生徒の主体性を育てるには、文字言語によってまとめるなど学習活動を振り返る機会を設けることが重要である。その振り返りが、自分の考えを深め、また、学習の有用感を味わうなどして、学びを意味付けたり価値付けたりすることになっていくのである。

本研究では、児童・生徒が１単位時間の終末に自らの学びを振り返り、次時の学びに主体的に取り組む態度を身に付けられるよう、振り返りの視点を明確にした。児童・生徒の振り返りは、１単位時間の報告や感想のみで終わらせず、本時のめあてを意識しながら学びを意味付け、自己の変容や残された課題を自覚できるようにすることが重要である。そのためには、教員が児童・生徒に具体的な振り返りの視点を示すなど、振り返りを意図的に指導する必要がある。本研究で示した振り返りの視点は以下の通りである。

①今日のめあてに対してできるようになったこと
②活動を通して、分かったこと
③工夫して考え、取り組んでみたこと
④友達の考えや表現のよさから学んだこと
} 自己の成長

⑤学習の中で更に考え、伝えたいと感じたこと
⑥新たな疑問や次時にしたいこと、すべきこと
} 次時のめあて

４　実践事例

実践事例１　探究課題を「地域の人との交流」とした実践例（小学校第３学年）

(1) 単元名　　「大好きわたしのまち　すてきな人　すてきな自分」

(2) 単元の目標と評価規準

ア　単元の目標

町づくりや地域活性化などのために行われている様々な取組を知り、地域の人々のよさを実感するとともに、地域の一員である自分自身の生活を振り返り、地域のためによりよく行動する。

イ　単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること				自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
	課題設定力(課)	情報収集力(情)	整理・分析力(整)	まとめ・表現力(ま)	自己を見つめる力(自)	関わる力(関)
単元の評価規準	(1)地域の活動について理解を深めるための課題を見付けている。	(1)地域の人の話を聞き、情報を集めている。	(1)地域の人の話から分かったことを、整理している。	(1)地域の人から学んだことや感想を手紙に書いている。	(1)自分も町を活性化できる一員であることに気付いている。	(1)地域の人と親しみながら関わる中で、町のための様々な取組について理解しようとしている。
	(2)地域の活動に興味をもち、課題を見付けている。	(2)地域の人たちが町のために行っていることを調べている。	(2)調べた情報を図や文などで整理している。	(2)地域の人から聞いたことや考えたことなどについて、伝え合っている。	(2)自分の生活を振り返り、地域のために何ができるか考えている。	(2)友達や地域の人と関わりながら調査活動を行っている。
	(3)地域をよりよくするために、自分が追究したい課題を決めている。	(3)自分で設定した課題を解決するための情報を集めている。	(3)地域をよりよくするための活動について、整理したり、分析したりしている。	(3)地域の人に分かりやすく伝わるように自分の考えを表現している。	(3)学習を振り返り、これから地域の一員として生活に生かそうとしている。	(3)地域の人に向けて、自分の思いや活動、提案を伝えている。

(3) 研究主題に迫るための手だて

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

本時のめあて、本時の活動内容、まとめ、振り返り、次時のめあてをワークシートに記入できるようにすることで、めあての設定を習慣付ける。まとめと１単位時間の活動を振り返ることで、次時のめあてにするべきことを問い掛け、考えたり話し合えたりすることができるようにする。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

児童が本時の活動を価値付けるために、振り返りの視点を教員が意図的に選ぶ。Ｖの３授業研究(2)で述べた振り返りの視点を基に､児童の実態に合わせて振り返りの視点を以下のように整理した。その整理した視点を基に、１単位時間ごとに児童が振り返りをするように指導する。また、次時のめあてを設定し振り返ることで、すすんで次時の学習に取り組むことができるようにする。

①めあてを達成することができたか。
②自分から考えたり取り組んだりすることができたか。
③友達の考えや取組のよさに気付けたか。
④学習をする中で、更に（新しい）考えを出すことができたか。
⑤次にしたいことや疑問を見付けることができたか。

(4) 単元指導計画【全 25 時間】

	探究	□主な学習活動（○内は時間数） ・予想される児童の発言	○教師の支援 ☆主題に迫るための手だて	評価規準
まちをすてきにしている活動について知ろう⑥	課	□地域のために行われている活動を、想起して全体で確認する。① ・見守り隊　　・地域運動会	○地域の人を思い浮かべ、活動と結び付けられるようにする。	課(1)
	情	□地域の人に話を聞き、町や自分たちのために行われている様々な活動があることを知る。②	○健全育成推進委員のゲストティーチャー（以下、ＧＴ）と内容について打合せをしておく。	情(1) 関(1)
	整	□地域の人の話から、分かったことをまとめたり感想を書いたりする。①	○分かったこと、感じたこと、考えたこと、疑問に分けて書くことができるようにする。	整(1)
	ま 課	□地域の方にお礼の手紙を書く。① □分かったことや感想を交流し合い、学習のゴールイメージをもつ。①【本時】 地域のために行動できる人になろう。	○手紙を書くことを通し、感謝の気持ちをもち、地域への関心が高まるように指導する。 ☆ゴールイメージを明確にし、単元を通して主体的に学習に取り組むことができるようにする。	ま(1) 自(1) 課(3)
まちをすてきにしている活動を詳しく調べよう⑨	課	□地域をよりよくするために調べる課題を設定する。① ・見守り隊の活動について詳しく知りたい。	○ＧＴの話を受けての感想や前時に作ったゴールイメージを基に課題設定をし、活動計画を立てるようにする。	課(2)
	情	□地域で行われている活動について各グループで調べる計画を立てる。②	○ＧＴと日程の調整をし、話を聞くことができるようにする。 ○放課後に現地調査をするため、保護者や地域の方の協力を依頼しておく。	情(2)
	整	□ＧＴから聞いた話や調べた内容から分かったこと考えたことをまとめる。④	○国語科で学んだまとめ方を確認する。 ・段落に分け、要点が分かるように書く。 ・箇条書きを入れて分かりやすくする。 ・資料（絵、写真）を効果的に入れる。	整(2)
	ま	□地域の活動について、分かったことや考えたことなど、情報を交換し合う。② ・どんな気持ちで朝の見守りや夜回りをしてくれているかよく分かった。	○グループで発表し合い、地域のために行われている活動を多面的に見られるようにする。	ま(2)
まちの一員としてできることをしよう⑩	課	□ゴールイメージを達成するために、どんなことができるか話し合う。① ・挨拶隊を作る。 ・クリーン活動を広める。	○交流した情報から、町をよりよくしたり、よさを守ろうとしたりしている人たちの働きに自分がどう関わることができるか考える時間を設ける。	課(3) 自(2)
	情	□地域のために自分たちができる活動について実践して、検証する。②	○学年全体やグループごとに取り組めるものを行い、個人で継続して行えるものは、引き続き行うことができるように支援する。	情(3) 関(2)
	整	□検証結果を整理し、分析する。④ ・挨拶をすることで、気持ちがよいと地域の人が喜んでくれた。	○国語科で学んだまとめ方、発表の仕方を確認する。 ○必要に応じてインタビューを行い、感想等を集められるようにする。	整(3)
	ま	□地域の人に、実践報告をする。② □これまでの活動を振り返って自己の成長に気付き、これからの自己の生き方について考える。①	○ＧＴを招待し、これまでの活動を価値付けてもらう。 ○活動の記録を掲示して、児童がいつでも見られるようにしておく。	ま(3) 関(3) 自(3)

(5) 前時について（地域の方の話をまとめて表現をする場面）（５/25 時間）

ア　前時の目標

地域の方に手紙を書くことで、地域の活動に対する興味・関心を高める。

イ　前時の概要

前時に決めた「地域の方にお礼の手紙を書こう」のめあてに沿って学習を進めた。国語科で学習した手紙の書き方を確認し、分かったことや気持ちだけでなく、話を聞いて考えたことを書き、学習の理解を深めた。友達と手紙を読み合うことで、友達が地域の活動に対してどのような感想や考えをもったかを知り、次時のめあての設定を行うことができた。

(6) 本時について（単元のゴールイメージを設定する場面）（６/25 時間）

ア　本時の目標

地域で行われている活動の概要について知り、本単元で目指すゴールイメージをどうすればよいか考え、ゴールイメージをもつ。

イ　本時の展開

時間	□主な学習活動 ・予想される児童の発言	○教員の支援　☆主題に迫るための手だて ◆評価規準
導入	□本時のめあてを確認する。 地域のためにどんな自分になれるか考えよう	☆前時に決めためあてを掲示しておく。 ○めあては、学習を通して身に付けたいことであることを確認する。 ○学習の流れについて黒板に表示して確認する。
展開	□ＧＴの話から、地域のために行われている様々な活動があることを知り、地域のためにどんな自分になりたいか考える。 ・地域活動にすすんで参加する。 □個人の考えを班で共有し、そこからゴールイメージについて考える。 □全体でゴールイメージについて話し合う。 ・地域の活動にすすんで取り組めるようになろう。 □本時のまとめをする。	○ＧＴの話をまとめたワークシートから、地域にどのような活動があるか確認する。 ○思い浮かばない児童には、地域活動のキーワードが書かれた紙を渡し、選べるようにする。 ○一人一人が発表してから話合いを行うことを確認する。 ○班で考えたことを全体で共有する。 ○学級会での話合いを想起させ、話合いをする。 ◆課（３）　地域をよりよくするために、自分が追究したい課題を決めている。（発言・ワークシート）
終末	□振り返りをワークシートに書く。 □次時のめあてを決める。 ゴールイメージにつながるための活動を計画しよう	☆振り返りの視点を提示する。 ○ゴールイメージに到達するために、どのような活動が必要になるか考える。

(7) 考察

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

本時のめあて、本時の活動内容、まとめ、振り返り、次時のめあてをワークシートに記入することで、児童が学習の流れを理解することができた。また、黒板に「めあて」、「振り返り」、「次時のめあて」をマグネットで表示し、学習方法をイラストで掲示することによって、視覚的にも学習の流れが分かりやすくなった。学習の流れを理解すると、児童が主体的に次時のめあてを考えることができるようになった。

教員は、常にゴールイメージと本時のめあてを意識させる指導を行うことで、児童は常に何を学ぶかを意識して学習を進めることができた。また、振り返りを行う前に、学習のまとめを行っておくことは重要であった。児童がその時間にどんな活動をし、何を学んだかを学級全体で確認することで、振り返りの内容が明確になり学習内容を価値付けることができた。

１学期は、学習中に児童から「次は何をするのか、どうすればいいか」といったつぶやきが多く聞かれた。しかし、児童自らが次時のめあてを設定することを繰り返すことにより、２学期以降は、「次の時間には、みんなで調べたことを教え合いたい」、「地域のためにできる活動を考えるのはどうか」というつぶやきや発言が増えた。課題を他人事ではなく、自分事として考えることができる児童が増えたことが、成果として挙げられる。

課題としては、１単位時間の中で次時のめあてを設定するには、学習のまとめを丁寧に行う必要があるが、十分な時間を取れなかった点である。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

まず、振り返りの意義を確認した。さらに、Ｖの３授業研究(2)に述べた振り返りの視点を児童の実態に合わせて、整理して提示した。小学校第３学年は、総合的な学習の時間の導入期であり、振り返りを行うことを習慣付けることで、１単位時間に学習したことを明確に理解することができた。

振り返りの視点、「①めあてを達成することができたか」については、児童全員が振り返り、めあての達成度を自己評価することができた。また、①の視点で振り返りを行うことで、「②自分から考えたり取り組んだりすることができたか」「③友達の考えや取組のよさに気付けたか」「④学習をする中で、さらに（新しい）考えを出すことができたか」「⑤次にしたいことや疑問を見付けることができたか」という視点についても、友達の考えを聞くだけで自分の考えを表現することが苦手だった児童が、振り返りを記述することができるようになった。「地域の祭りに参加してみたい」「友達の説明を聞いたことで、自分が気付けなかったことに気付けた」「地域に危険な場所がないか調べるのはどうだろう」というふうに、次時の学習につながる記述ができるようになった。

すすんで発表したり、友達と話し合い、折り合い活動を進めたりできるようになったことはもちろん、自分の学習を言葉に表現して振り返り、次時のめあてについて考えられるようになった姿から、児童が主体的に学習するようになったと言えると考える。

実践事例２　探究課題を「障害のある方との交流」とした実践例（小学校第４学年）

(1) 単元名　　「広がれ！　わたしたちのみんなにやさしい活動」

(2) 単元の目標と評価規準

ア　単元の目標

障害のある方との交流を通して、障害について理解を深め、障害のある方と共に生きていくために自分たちにできることを考え、実践していく。

イ　単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること				自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
	課題設定力(課)	情報収集力(情)	整理・分析力(整)	まとめ・表現力(ま)	自己を見つめる力(自)	関わる力(関)
単元の評価規準	⑴障害に対する自分の意識から課題を見付けている。	⑴障害のある方との出会いや体験を通して、障害について情報を集めている。	⑴出会いや体験で得た情報を整理して、分析している。	⑴出会いや体験を振り返り、ＧＴに手紙を書いている。	⑴障害に対する自分の意識と実際の違いに気付いている。	⑴障害について知るために、ＧＴと親しみながら関わっている。
	⑵自分たちの住む地域に目を向けて課題を見付けている。	⑵地域の方に話を聞いたり、実際に地域を見学したりし地域の情報を集めている。	⑵調べた情報を地図やグラフ、考えるための技法などで整理し、分析している。	⑵地域の調査活動の分析を友達に伝えたり、質問したりしている。	⑵今までの自分の行動を振り返り、これからの行動を考えている。	⑵調査活動の中で、友達や地域の人と関わっている。
	⑶単元のゴールイメージに向かうために、自分が追究したい課題を見付けている。	⑶自分で設定した課題を解決するために、必要な情報を集めている。	⑶伝える目的意識をもち、必要な情報を整理して、分析している。	⑶相手意識・目的意識をもって、自分の思いをポスターなどで表現している。	⑶これからの自分の行動について意思決定し、実践している。	⑶地域の人や保護者、全校児童に向けて自分の思いや考え、提案を伝えている。

(3) 研究主題に迫るための手だて

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

児童が自ら学習活動を見通して、次時のめあてを設定することができるようになるためには、教員が意図的に関わらなくてはならない。本単元では、児童自らが次時のめあてを設定できるようにするために、児童に以下の２点を意識させる。

・単元の終末に自分がどうなっていたいのかという「ゴールイメージ」を考えること

・時間を設定して話し合うこと

また、教員は、目的や理由、方法などを具体的に問い掛けることを意識して指導する。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

児童が毎時間の活動を通して、新たな課題を見付け、自己の成長に気付き、次時の活動の見通しをもてるようにするために、振り返る視点を指導する。

本単元では、本時のめあてに対する自己評価をワークシートに記入し、振り返りを行う。Ｖの３授業研究(2)に述べた振り返りの視点を掲示して学習活動を振り返るように指導する。また、詳しく書けている児童の振り返りを児童の前で意図的に紹介することで、よい振り返りを価値付け、広めるようにする。

(4) 単元指導計画【全 31 時間】

	探究	□主な学習活動（○内は時間数） ・予想される児童の発言	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて	評価規準
障害とは何か学ぼう⑨	課	□国語科や特別の教科道徳の教材を通して障害について考える。①	○障害者に対する自分の意識を確認するために、イメージマップに鉛筆で書き出すようにする。 ○ＧＴには、児童に考えてほしいことを伝えてもらうように依頼しておく。 ○考えを付箋に書き出し、分かったこと、分からないことの視点でまとめられるようにする。 ○学習のゴールイメージを学級全体で話し合い、「この学習を通してどんな人になりたいか」という具体的な姿として共通理解する。 ☆ゴールイメージを具体的にし、何をすべきか明確にするために、問い掛けるようにする。	課⑴
	情	□障害者の方との交流を通して、障害者の生活や困っていることを知る。② □障害者体験をする。②		情⑴ 関⑴
	整	□障害について、出会いや体験から学んだことを整理する。① ・障害のある人との関わり方を知りたい。		整⑴ 自⑴
	ま	□お礼の手紙を書く。① □お礼の手紙に対する返事を読んで、自分たちの考えや願いを交流する。① □本単元のゴールイメージをつくる。①		ま⑴
実際の町はどうなっているの⑥	課	□ゴールイメージに近付くために、自分たちがすべきことを考える。①	○地域の問題に気付きやすくするために、調査内容を多岐に広げず、車いすに焦点化する。 ○調べる視点をもつようにするために、何を、どのように、なぜと問うようにする。 ○車いす利用者の視点で地域を調べるようにする。 ○地図やグラフ、「考えるための技法」を用意しておき、児童自らが選択できるようにする。 ○グループで発表し合い、自分たちの町を多面的に見られるようにする。	課⑵
	情	□自分たちの住む地域の調査をする。②（課外） ・車いすの認知度調査や段差、スロープの調査をしよう。		情⑵ 関⑵
	整	□地図・グラフ・「考えるための技法」を使って整理する。①		整⑵
	ま	□互いの調査結果を分析・考察して、自分たちの考えを伝え合う。①【本時】 □次にしたいことを話し合う。①		ま⑵ 自⑵
今の自分にできること⑧	課	□「学習のゴールイメージ」に近付くために、今の自分たちにできることは何かを考える。①	○「実現できるかどうか」「効果があるかどうか」の二つの視点で考えを整理する。 ○手紙、電話、メールなど情報を集める方法は、児童が相手や目的に合わせて選ぶようにする。 ○地域のまつりを通して、誰に、何を、何のために、どのように伝えたいのかを考えるようにする。 ○発表する相手を意識できるようにする。	課⑶
	情	□障害のある方について理解を広げる方法を考える。③		情⑶ 関⑵
	整	□地域の方に知らせたいことを付箋操作で整理する。①		整⑶
	ま	□調べたことを学校のまつりで発表して、体験をした人から意見を集める。③		ま⑶
広がれ！みんなに優しい活動⑧	課	□出された意見を基に、自分たちがすべきことを考える。①	○自分たちで本当にできることなのかを考えられるようにするために、方法や理由も明らかにするようにする。 ○地域のまつりを通して、誰に、何を伝えたいのかを考えるようにする。 ○国語科でポスターセッションの方法を学習して、地域に向けての発表をする。 ○第１時で作成したイメージマップに青鉛筆で書き加え、自己の成長を捉えるようにする。	課⑶
	情	□実践して検証する。② ・道路の補修が必要だ。路上駐輪を無くしたい。		情⑶ 関⑵
	整	□検証結果を整理し、分析する。④		整⑶
	ま	□有志で地域まつりに参加し、発表して意見をもらう。（課外） □発表会を開き、意見をもらう。（休み時間）		ま⑶ 関⑶
	課	□これまでの活動を振り返り、自己の成長に気付き、これからの生活を考える。①		自⑶

(5) 前時について（調査結果を整理する場面）(13/31 時間)

ア　前時の目標

車いす利用者の視点で調査した情報をグループごとに整理する。

イ　前時の概要

導入では、めあての「整理すること」はどういうことなのかについて確認を行った。展開時には、調査グループに分かれて整理をした。授業前に、児童と共に、調査内容を比べるのか、仕分けるのか、ランク付けをするのか、つなげるのかによって、情報を整理する方法を考えた。事前に考えておくことで、調査内容に適した整理の方法を児童自らが選択できるようにした。整理し終えたグループは調査結果を分析するように促した。授業の終末では、振り返りの視点を意識させながら振り返らせた。その振り返りを基に、次時のめあてを「学級で取り組むべきことを考えるために、調べて分かったことを意見交換しよう」と決めた。

(6) 本時について（整理した調査結果を分析する場面）(14/31 時間)

ア　本時の目標

自分たちの町について、車いす利用者の視点で調査した結果を基に、分析して意見を伝えたり、発表を聞いて質問したりする。

イ　本時の展開

	□主な学習活動 ・予想される児童の発言	○教員の支援　☆主題に迫るための手だて ◆評価規準
導入	□本時のめあてを確認する。 学級で取り組むべきことを考えるために、調べて分かったことを意見交換しよう	☆前の時間に決めためあてを掲示しておく。
展開	□調査グループに分かれて発表内容や役割分担を確認する。 □グループ発表５分×２回（10 グループ） ・路上駐輪が多く、通りづらい場所がある。 ・車いすを利用していると、いやな目で見られるそうだ。 □自分の調査グループに戻り、どんな話をしたのか意見交換をする。 □取り組むべきことを提案する。 ・町の中は段差が多い。段差を無くしたい。 ・車いす利用者について知らせたい。	○グループの一人が説明をし、他の児童は他のグループの説明を聞いて助言をする。 ○話合いが停滞しないように、事前に説明のメモや想定問答を事前に考えるように指導する。 ○自分たちのグループとの共通点、相違点、初めて知った点などを話し合えるように促す。 ○調査グループに戻り、意見交換した内容を話すように促す。 ◆ま(2)　自分たちの町について、車いす利用者の視点で調査した結果を基に、分析して意見を伝えたり、発表を聞いて質問したりしている。（発言）
終末	□振り返りをワークシートに書く。 □次時のめあてを決める。 車いす利用者のために自分たちができることを考えよう	☆振り返りの視点を提示し、自らの学習を振り返るように指導する。 ○様々な場所で車いす対応がなされていない実態に着目し、車いす利用者の現状を知らせ、対応策を考えたいという思いをもてるようにする。

(7) 考察

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

まず、９時間目（全 31 時間）に本単元のゴールイメージを児童と共に話し合って決めた。話合いの結果、「身近な人と一緒に、障害のある人と助け合おう」になった。次に、次時のめあてを設定するときには、そのゴールイメージに近付くために、自分たちがすべきことを考えるように指導した。その際、教員が、今すぐ取り組むべきか、何のためにするのか、誰を対象にするのかなどについて問い返すことで、優先順位や方法、目的をはっきりさせて、次時のめあてを設定するように指導した。

初め、児童はゴールイメージを意識して「まちの様子が分かったから、助けたい」というめあてを設定した。そこで、教員が誰に、何のためにするのかを児童に問い返したことによって、「学級で取り組むべきことを考えるために、グループ発表で調べて分かったことの意見交換をしよう」のように、より具体的なめあてに変わった。

めあてを前時で設定する前は、児童にとって本時の活動の見通しがもてず、ほとんどの児童が「先生、次の総合的な学習の時間は何をしますか」と教員を頼っていた。しかし、めあてを前時に設定したことによって、児童が「次のめあてに向かって休み時間に準備しておかないと」とつぶやいたり、振り返りに次の活動を具体的に書いたりすることができた。これは、次時のめあてに向けて見通しをもつことができ、主体的に学習に取り組めるようになったからだと考えられる。前時にめあてを設定したことにより、１単位時間がそれぞれ独立した学習ではなく、つながりのある学習になった。

また、教員は、次の活動を予想することで、児童が取り組みたい活動の準備が可能となり、その活動を実施することができた。支援の必要な児童への個別指導も可能となった。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

まず、振り返りの意義を児童と共に考え、教室に掲示した。振り返りの意義とは、「振り返りをすることで、学習した内容が整理されること、学んだことを生活に生かせること、友達や自分のよいところや成長に気付くこと、次のめあてが見付かること、次時の活動への見通しをもてること」の五つである。次に、１単位時間の終末には、Ｖの３授業研究(2)に述べた振り返りの視点を示して、この視点を基に振り返るように指導をした。

振り返りの視点を示す前の振り返りでは、全ての児童が「今日は発表を頑張った」など「①今日のめあてに対してできるようになったこと」、「②活動を通して、分かったこと」のみを記述していた。しかし、振り返りの視点を示したことにより、約半数の児童が次時の活動に目を向け、「ゴールイメージがあるので、町中にポスターを貼り、私たちも手伝いをした方がよいと思いました」など「⑤学習の中でさらに考え、伝えたいと感じたこと」、「⑥新たな疑問や次にしたいこと、すべきこと」を記述できるようになった。振り返りの視点を示したことにより、児童は何について振り返って書けばよいのかを理解することができ、具体的な表現に変わっていったと考えられる。

振り返りは、教員が児童の学びを見取り、教員の児童への支援の在り方を考えるための大切な資料となった。教員は児童の振り返りを把握することで、次時の授業までに支援すべき児童や必要となる教材、教具を把握することができた。

実践事例３　探究課題を「地域の産業とそれに携わる人々」とした実践例（小学校第５学年）

(1) 単元名　　「広げようつなげよう　東京狭山茶」

(2) 単元目標と評価規準

ア　単元の目標

地域の主産業に携わる人たちとの交流を通して、製茶業に対する理解を深めるとともに、東京狭山茶のよさをより多くの人に知ってもらうため自分たちにできることを考え、実践していく。

イ　単元の評価規準

<table>
<tr><td rowspan="2">評価の観点</td><td colspan="4">学習方法に関すること</td><td>自分自身に関すること</td><td>他者や社会との関わりに関すること</td></tr>
<tr><td>課題設定力（課）</td><td>情報収集力（情）</td><td>整理・分析力(整)</td><td>まとめ・表現力(ま)</td><td>自己を見つめる力(自)</td><td>関わる力（関）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">単元の評価規準</td><td>(1)身近な事柄の中に問いを見いだし、課題を設定している。</td><td>(1)課題の解決に必要な情報を計画的に収集している。</td><td rowspan="3">(1)目的に応じて、収集した情報を適切に整理・分析している。</td><td rowspan="3">(1)調べたことをまとめ、友達や地域の人に伝えている。</td><td>(1)課題の解決に向け、積極的に行動している。</td><td>(1)友達や地域の人と積極的に関わっている。</td></tr>
<tr><td>(2)学習の過程で発見したことに基づき、新たな課題を設定している。</td><td>(2)情報の収集に有効な方法（質問する・現地に行く等）を選択している。</td><td rowspan="2">(2)友達や地域の人との関わりを通して、自己の生活（話し方や態度など）を見直している。</td><td>(2)友達や地域の人に向け、適切な方法で発信・提案している。</td></tr>
<tr><td>(3)学習の過程で自らの学びを振り返り、課題を修正している。</td><td>(3)人の話を正確に聞き取ったり、資料を正確に読み取ったりしている。</td><td>(3)友達や地域の人の意見をすすんで取り入れている。</td></tr>
</table>

(3) 研究主題に迫るための手だて

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

単元の導入時に、学習のゴールイメージを児童の言葉で確かめる。それを踏まえて、１単位時間の学習のめあて（「本時のめあて」）を設定する。毎時間の学習の終末では、次に何をしたいかなどを話し合い、次の１単位時間の学習のめあて（「次時のめあて」）を設定する。このような学習を繰り返すことにより、見通しをもって学習する力や学習を振り返る力が、高まるようにしていく。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

Ｖの３授業研究(2)に述べた振り返りの視点は、教室に掲示して児童がいつでも見られるようにしておく。本単元の概ね第１次の間は、振り返りを言語化することができるようにするため、小グループでの会話など音声言語による振り返りを行う。振り返りの言語化に慣れたところで、作文など文字言語による振り返りができるようにしていく。他教科等の指導でも同様の振り返り指導を行う。なお、望ましい振り返りを教員が価値付けたり、振り返りを友達と交流する機会を設けたりして、振り返りの質の向上を図っていく。

(4) 単元指導計画【全 50 時間】

	探究	□主な学習活動（○内は時間数） ・予想される児童の発言	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて	評価規準
町の特色を捉えよう⑫	課	□学習課題を設定する。②	☆主体的な学習を継続的に進められるよう、最初の課題設定場面では児童の思いや願いを出し合う時間を確保する。 ○現地調査前に、地域で出会った方に話し掛ける場合のマナーを指導する。 ○学区周辺の現地調査では、茶畑がどこにあるか、茶畑の周囲には何があるかに着目できるようにする。 ○他地域（臨海学校宿泊施設周辺）での現地調査では、どんな農作物の生産が盛んかに着目できるようにする。 ※課外の活動は、夏季休業中の臨海学校で行う。	課(1)
	情	□学区周辺の現地調査を行い、茶畑の広がりの実態を把握する。④ ・店の周りに茶畑・製茶工場がある。		情(1)(2) 関(1)
	整 課	□現地調査の結果を拡大地図に整理し、更に知りたいことを考える。② ・他の地域と比べたい。 ・東京狭山茶の作り方を調べたい。		整(1) 課(2)
	情	□他地域との比較について、現地調査の計画を立て、現地に行く前に関連資料やインターネットで情報を収集する。③		情(1)(3)
	整	□他地域での現地調査を行い、収集した情報を整理する。（課外）		関(1) 整(1)
	ま	□他地域と比較し、まとめる。①		ま(1)
東京狭山茶をもっと知ろう⑫	課	□東京狭山茶をより多くの人に知ってもらうためにすべきことを考える。① ・まず自分たちが東京狭山茶のことを深く知る必要がある。	○課題設定を支援するため、東京都ホームページ「インターネット都政モニターアンケート『東京の農業』（平成 27 年度）」の結果を提示する。 ☆博物館や製茶工場を訪問する前に、何のために行くのかを繰り返し確認する。 ○収集した情報を整理する活動を繰り返すことによって、児童が実現したいと考えている「オリジナル東京狭山茶作り」や「東京狭山茶試飲会」の実現に向けてすべきことを見付けられるようにする。 ○事前に校長や各学級担任に許可を得るなど、アンケート調査による情報収集に必要な手順を踏ませる。	課(2)
	情 整	□博物館を訪問し、収集した情報を整理する。④		情(2)(3) 整(1) 自(1)
	情 整	□学区内の製茶工場を訪問し、収集した情報を整理する。⑤ ・訪問前に何を質問するか考えておこう。 ・茶葉を分けていただけないか相談したい。 ・校内での認知度を調査したい。		情(2) 整(1) 関(1) 自(2) 課(3)
	情整	□校内でアンケート調査を行う。①		情(1)
	ま 課	□調査結果を分析し、次の課題を設定する。①【本時】 ・狭山茶を飲んでいる人が少ない。		整(1)
試飲会をしよう⑭	課 情 整	□東京狭山茶の試飲会に向けた計画を立て、学年で東京狭山茶の試飲をする。⑤ ・お湯の温度を変えた方がいい。	○試飲会は、誰を対象として、何のために行うのかを繰り返し確認し、相手意識と目的意識をもたせる。 ○試飲会の前に、保護者には、児童に率直な感想を伝えるようお願いしておく。 ○保護者会での反応から新たな課題を見いだし、次の試飲会に向け、製茶工場の方と再度交流することの必要性に気付かせるようにする。	課(2) 情(1) 整(1)
	ま 情	□保護者を対象にした東京狭山茶の試飲会を開き、感想を聞く。②		ま(1) 関(2)
	整課	□保護者の反応を受け、今後の試飲会実施に向けて新たに計画を立てる。①		関(3)
	情 ま	□製茶工場の方と２度目の交流を行って試飲会の内容を改善し、校内の児童と教職員を対象にした試飲会を行う。⑥		情(3) ま(1) 関(3)
東京狭山茶のよさを広げよう⑫	課	□校内の人に東京狭山茶のよさを伝える方法を考える。① ・校舎内にポスターを貼りたい。 ・各学級で試飲会をしたい。	○情報の発信は、誰を対象として、何のために行うのかを繰り返し確認し、相手意識と目的意識をもたせる。 ○事前に校長に許可を得るなど、校内でのＰＲ活動などに必要な手順を踏ませる。 ○ポスター制作に必要な情報を収集する。制作したポスターを学年で見せ合ったり製茶工場の方に見ていただいたりして、東京狭山茶のよさをより効果的に伝えるための修正や改善をする。 ☆発信する活動後は、その効果について振り返りを行い、更に取り組むべきことを見いだせるようにする。 ○特定の他者と直接的に交流してきた経験を踏まえ、不特定の他者に向けた情報発信の方法を児童が見付け、必要な交渉を主体的に行えるようにする。	課(2)
	情整 ま	□ポスターを制作し、校内に掲示する。④		自(1) 課(3) ま(1)
	課 情	□町民に東京狭山茶のよさを伝える方法を考え、計画を立てる。③ ・ポスターやリーフレットを作りたい。 ・町の掲示板やインターネットを活用したい。		自(1) 関(3)
	ま	□東京狭山茶をいれて地域の方と交流する活動を通して、東京狭山茶のよさについて発信する。③		ま(1) 関(1)(2)
	ま	□単元全体の振り返りを行う。①		自(2)

(5) 前時について（アンケートによる情報収集の計画を立てる場面）(23/50 時間)

ア　前時の目標

東京狭山茶の認知度を把握するために校内で実施するアンケート調査について話し合い、調査に必要な項目を決定する。

イ　前時の概要

漠然と「東京狭山茶の認知度を上げたい」と考えていた児童が、校内での東京狭山茶の認知度はどの程度なのかを把握していないことに気付き、「『東京狭山茶認知度アンケート』をとる計画を立てよう」という学習のめあてを設定した。前時では、このアンケート調査にどのような項目が必要なのかを精査するとともに、調査日程等を話し合って決定した。なお、前時と本時の間を１週間空け、その間にアンケート調査の実施と集計を済ませた。

(6) 本時について（アンケートにより収集した情報を整理・分析する場面）(24/50 時間)

ア　本時の目標

東京狭山茶の認知度を把握するため校内で実施したアンケート調査の結果について話し合い、校内での東京狭山茶の認知度を捉える。

イ　本時の構成

	□主な学習活動 ・予想される児童の発言	○教員の支援　☆主題に迫るための手だて ◆評価規準
導入	□「本時のめあて」を確認する。	☆前時に決めた学習のめあては、教室に掲示しておく。
	アンケートの結果から、東京狭山茶の認知度がどのくらいか知ろう	
展開	□それぞれの調査班で、アンケートの調査結果から分かることを話し合う。 ・お茶の学習をしていた３年生は、かなりの人が東京狭山茶を知っている。 ・１年生や２年生は、東京狭山茶を知らない。 ・東京狭山茶を飲んでいない人が多い。 ・東京狭山茶を知らない１年生のために、試飲会をしたらどうだろうか。 □学級全体で、各グループの分析結果について共有する。	○調査結果の数字に着目することに加え、アンケートに回答している相手の実態を踏まえて、調査結果を分析するよう促す。 ○分類や関連付けなどの「考えるための技法」を活用して、話合いの過程を児童が把握できるようにする。
終末	□学習のまとめとして、本時で分かったことを全体で確認する。 ・だいたいの人が東京狭山茶の名前は知っているが、あまり飲んだことがないようだ。 □「次時のめあて」を設定する。	
	東京狭山茶の校内の認知度を上げる方法を考えよう	
	□本時の学習を振り返る。 ・校内の認知度を上げるには、やはり校内での試飲会が必要だと思う。 ・試飲会ができるとしたら、その前に「試飲会をするよ」と伝えるポスターをかきたい。 ・学校公開で試飲会をしたい。また、参加者に試飲会の感想も聞きたい。	☆ワークシートに振り返りを書く際、振り返りの視点を示す。 ◆整(1)　校内アンケート調査の結果を基に友達と話し合い、校内での東京狭山茶の認知度を分析している。（発言・ワークシート）

(7) 考察

ア　児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

単元全体の見通しをもって活動に取り組むことが、次にすべきことやしたいこと、実現できることを見付けるのに重要な要素である。単元のゴールイメージを学級全体で話し合って決定したことは、児童が見通しをもって毎時間の学習を進められるようにするのに効果的であった。ゴールイメージは、児童が探究課題に本気で向き合うようになると、より具体的なものに変容していく。本単元では、ゴールイメージが、「東京狭山茶の認知度を１位にしよう」から「東京狭山茶のよさを知らせる動画やポスターを作ろう」に変わってきた。また、ゴールイメージを踏まえて１単位時間の学習の見通しをもつには、毎時間の展開場面が充実することはもちろん、学習のまとめをすることによって、学級全体が学んだことや進捗等を共通理解していることが必要であると分かってきた。

一方、学習のまとめが不十分であったり教員が児童の思いを十分に引き出せなかったりすると、全員が納得してではなく、一部の児童が述べた意見だけで次時のめあてが決まってしまう場合もあった。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

まず、１単位時間ごとの学習を振り返る必要感をもたせるために、教員が振り返りの価値付けを行うこととし、次の三つの価値を児童に提示した。

１　自分が達成したことや難しかったこと（その日には達成できなかったこと）が分かる。 ２　友達のよいところが分かる。また、それを取り入れて自分もよりよい学習ができる。 ３　自分がこれから何をしたいのか、何ができるようになりたいのかを見付けられる。

次に、Ｖの１基礎研究(2)に述べた振り返りの視点を示し、各教科等の学習の終末に振り返りを行うようにした。特に総合的な学習の時間では、自分たちの振り返りこそがこれからの活動内容の決定に関わるのだという意識をもたせるため、質の高まっている振り返りを児童に紹介し、それを次時のめあての設定と関連付けてきた。その結果、自分たちが主体となって学習するのだという意識が高まり、その意識が他教科等の学習にも波及的に広がってきた。４月は自分の思いを主張するばかりで友達との話合いを進められなかった児童が、２学期には「みんなにお茶を飲んでもらおう」と呼び掛け、友達と一緒に進んでポスター作りをしていた。１学期は「先生、次はどうするの」と常に確かめていた児童が、10 月には東京狭山茶についてより多くの情報を収集するために、学年全員で博物館や製茶工場を訪問する必要があると気付き、教員を説得しようと友達と知恵を出し合っていた。

振り返りの質も向上してきた。４月には積極的に発言する友達の意見に「同じです」と言うのがやっとだった児童が、９月には「博物館で学んだことを１回ポスターにまとめ、学校や地域に広めよう」と振り返りを書いていた。６月には「茶畑を探すのを頑張った」など、事実を述べるにとどまっていた児童が、10 月の製茶工場の訪問直前の授業後には「明日のために、インターネットなどを見て分かることを家で調べておく」と振り返りを書いていた。振り返りの質が高まった児童は、家庭学習にも意欲的に取り組むようになった。

児童が毎時間、振り返りの価値を十分認識して自己の学びを振り返るようにするためには、教科指導での小作文やスピーチなど、言語による表現力を高める継続的な取組を総合的な学習の時間での学びと関連付けて行うことと、振り返りの時間の確保が必要である。

実践事例４　探究課題を「2020 年に向けた地域の取組」とした実践例（中学校第１学年）

(1) 単元名　　「Let’s search for Tokyo
～さあ、素晴らしい東京を探しに行こう！　2020 年に向けて～」

(2) 単元の目標と評価規準

ア　単元の目標

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京 2020 大会)に向けて、地域の外国人と交流することを通して、中学生としてできることを考え、実践する。

イ　単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること				自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
	課題設定力（課）	情報収集力（情）	整理・分析力（整）	まとめ・表現力（ま）	自己を見つめる力（自）	関わる力（関）
単元の評価規準	⑴東京 2020 大会に関する自分たちの意識から、課題を見付けている。	⑴書籍・新聞・インターネットなどから情報を集めている。	⑴オリンピックやパラリンピックについて集めた情報を整理し、課題解決に向けて仮説を立てている。	⑴相手意識をもって伝わりやすいように自らの考えを表現している。	⑴東京 2020 大会についての自分の考えと現実との違いに気付いている。	⑴友達や地域の方と交流しながら学習している。
	⑵東京 2020 大会に向け課題を更新している。	⑵観光客から、必要な情報を集めている。	⑵仮説と検証結果を比較・分析している。	⑵仮説や検証結果を相手に伝わりやすいようにまとめている。	⑵課題の解決に向け積極的に行動している。	⑵現地調査の中で、観光客と親しみをもって関わっている。

(3) 単元指導計画【全 19 時間】

	探究	□主な学習活動（○内は時間数） ・予想される生徒の発言	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて	評価規準
東京の魅力・課題を発見しよう⑥	課	□東京 2020 大会に向けて自分たちにできることを考える。①	○東京 2020 大会の副読本を活用する。 ○インターネットで情報を収集する場合、出典を明らかにするなどの注意点を指導する。 ○調べたことを付箋に書き出し、整理・分析できるように指導する。 ○探究的な活動の流れを確認する。 ☆振り返りの視点を提示する。	課⑴
	情 整	□東京 2020 大会についての情報を収集する。② □収集した情報を整理・分析する。①		情⑴ 整⑴ 自⑴
	ま	□それぞれの意見を交流し、自分たちができそうなことをまとめる。②		ま⑴ 関⑴
自分ができることを考えよう⑬	課	□学年で自分たちが実際にできることをしぼる。①	○考えを分類したり、関連付けたりするなどの「考えるための技法」を使って、生徒全員の考えを引き出す。 ○英語科の学習と関連付けて、コミュニケーションの取り方を確認する。 ○東京の課題について東京 2020 大会に向けて提言できるように支援する。 ☆振り返りの時間で生徒の立てた仮説を次時のめあてにつなげる。(仮説の検証)	課⑵
	情	□仮説や計画を立てる。① □浅草や上野を訪れている海外からの観光客と交流する。⑥		情⑵ 自⑵ 関⑵
	整	□体験した感想を交流し、仮説に対する検証を行う。②		整⑵
	ま	□単元を通しての振り返り、これから地域との関わり方を考える。① □東京 2020 大会に向けて、中学生としてできることを考える。②		ま⑵

(4) 学区域における小学校の総合的な学習の時間の指導（例）

ア　平成 28・29 年度実施の主な単元名（本単元に関係するもの）

第４学年	「オリンピック・パラリンピック応援隊」 ≪自分たちでできることを見付けよう≫
第５学年	「クールジャパンを探せ！」≪○○の魅力を探そう≫
第６学年	「おもてなし」 ≪茶の湯からおもてなしを考える≫

イ　主な学習内容

例として、本校学区域では、東京 2020 大会に向けて、国際理解教育を重視した総合的な学習の時間の学習を行っている。(4)アの単元以外にも、オリンピック・パラリンピックの歴史を学習したり、オリンピック・パラリンピック出場選手をゲストティーチャーとして招き、当該スポーツの歴史や発祥国の文化などを探究する学習を行ったりしている。また、留学生を招き、外国の文化や風習を学習する機会を設け、外国の様々な文化と触れ合う機会を設けている。

特に、東京 2020 大会に向けて、日本の魅力・東京の魅力を伝えることを目指し、これらについて探究する学習に重点を置いている。

(5) 中学校の総合的な学習の時間の指導

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編の第３章第１節では､｢総合的な学習の時間が充実するために、小学校や高等学校等との接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるよう目標を設定することも重要である｡」と述べている。

本校学区域の小学校では、探究的な学習の進め方を指導し適切な支援を行っているため、小学校での取組を踏まえて総合的な学習の時間の授業の実施することが可能である｡中学校では、小学校で身に付けた探究的な見方・考え方を発展させた横断的・総合的な学習を行うことを通して､よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくことが重要である｡また､中学校では､地域の小学校の学習内容を踏まえて探究課題を設定することが大切である。

本研究では、1 単位時間のめあての設定と振り返りについて､学校段階･発達段階を考慮し、生徒自らが次時のめあてを設定し、振り返りをすることができるよう指導する。

(6) 考察

ア　児童が次時のめあてを設定できるようにする指導

１単位時間の終末にめあてを設定するようになったことで、生徒は学習の見通しをもち、自信をもって活動する姿が見られた。また、あまり自分の考えを発言しなかった生徒が、東京 2020 大会のために自分たちがしたいことや､すべきことを議論するようになるなど､総合的な学習の時間の学習に深まりが見られるようになった。

イ　視点を明確にした振り返りの指導

視点を明確にして振り返ることで、自分の成長を自覚し、自らの将来を前向きに考えることができた。「英語を一生懸命に勉強して、３年後の東京 2020 大会では、道案内をしたい」という振り返りに見られるように、教科の学習に対する意欲も高まった。

しかし、授業の展開に時間がかかり、充実した振り返りができないことがあった。振り返りの時間を確保できるよう、時間配分を考えて学習を進める必要がある。

Ⅵ　研究の成果と課題

１　研究の成果

(1) 児童自らが次時のめあてを設定できるようにする指導

毎時間の学習のめあてを自ら設定できるようにするためには、児童・生徒が単元全体の学習の見通しをもてていることが必要である。単元の終末に到達したい自己の姿について学級で話し合い、「ゴールイメージ」として児童・生徒自らが設定するように指導した。学習のめあての設定は、そのゴールイメージを意識して授業の終末に行った。そこで、１単位時間の学習過程を①めあての確認、②本時の展開、③まとめ、④次時のめあての設定、⑤振り返りとした。次時のめあての設定の際には、児童・生徒が考えためあてに対して、教員がⅤの３授業研究(1)で示した問い返しを行った。

ゴールイメージを決めたことで、児童・生徒は自らが到達したい自己の姿を具体的に想像し、その姿に近付くために見通しをもって毎時間の学習を進めることができた。また、本時の終末に児童・生徒が次時の学習のめあてを決定しておくことは、児童・生徒が次の活動の見通しをもつことにつながった。児童・生徒自らが次時の学習のめあてを決定しておくことで、前もって調べたり準備をしたりするなど、児童・生徒はめあてを達成するために考え、自ら行動するようになった。児童・生徒自らが本時の学習のめあてを前時に決定しているので、学級全体がめあてを共通認識した状態で授業を始められるようになり、毎時間の授業につながりが見られるようになった。さらに、児童・生徒が考えためあてに教員が問い返すことで、取り組むべき次時のめあてがより精選され、具体的なものになった。これらの姿は、Ⅴの１基礎研究(1)に述べた主体性が育まれている姿である。よって、「児童・生徒自らが次時のめあてを設定できるようにする指導」は主体性を育てるために有効だったと考えられる。

(2) 視点を明確にした振り返りの指導

教員は振り返りの視点を示すとともに、毎時間の授業の終末で児童・生徒が振り返りを行う時間を確保し、更に児童・生徒の振り返りを評価し、価値付けをした。

振り返りの価値を示して児童・生徒がその必要感を認識できるようにするとともに、Ⅴの３授業研究(2)に述べた振り返りの視点を示したことにより、児童・生徒は何について振り返って書けばよいのかを理解することができるようになった。また「質の高まっている振り返り」を意図的に児童に紹介することで、振り返りがより具体的な表現に変わった。

さらに、児童・生徒は振り返りによって、これからすべきことを見いだしたり、課題解決に向けたより具体的な見通しをもったりすることができるようになった。

これらの姿は、Ⅴの１基礎研究(1)に述べた主体性が育まれている姿である。よって、「視点を明確にした振り返りの指導」は主体性を育てるために有効だったと考えられる。

２　今後の課題

次時のめあてを設定する際に、教員が本時のめあてに対する到達度や達成度を的確に把握しておくこと、児童・生徒が自分たちの本時の学習の状況を共通理解する「まとめ」の時間を設けることが重要であることが分かってきた。今後は、より一層児童・生徒が主体となってめあてを設定し、探究的な学習に取り組むことが可能となる「まとめ」の時間の在り方について、更に追究していきたいと考える。

平成 29 年度　教育研究員名簿

小・中合同・総合的な学習の時間

学　校　名	職　名	氏　名
足立区立千寿常東小学校	主任教諭	相馬　亨
江戸川区立南小岩第二小学校	主任教諭	◎小島　雄貴
調布市立飛田給小学校	主任教諭	綱嶋　やよい
瑞穂町立瑞穂第三小学校	主任教諭	原　弥生
西東京市立田無第二中学校	主幹教諭	河村　光之

◎　世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事　山本佳子

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小・中　合同・総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。